

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	濱口 道成
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	山本 一良
整理番号	G02	プログラムコーディネーター名	杉山 直
プログラム名	PhDプロフェッショナル登龍門		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

博士号を持ち、企業（起業を含む）・官公庁・マスコミ・政治・司法・国際機関・NPOなど、社会のあらゆる分野においてリーダーとして実践的に活躍する職業人、すなわちPhDプロフェッショナルを養成する。まず、名古屋大学の持つ高い研究力に支えられた高度な専門性をコアとして獲得する。その上で、さまざまな分野・背景の人々と協働して創造的な成果を生み出すために必要な能力をコアに対するスポークと位置付け、ディベート力・自己表現力、コミュニケーション能力、マネジメント能力、国際性と異文化・異分野理解力、自律的提案・解決能力などのスポークを本プログラムにより獲得することを通じて、コアである優れた学識が社会の中で真に発揮され得るようにする。スポーク能力をも身に付け得る資質は、プログラム参加時の選考によって保証する。また本プログラムでは、日本の新たな成長戦略としてのものづくり再生の鍵となる東南・南・中央アジアの諸国をフロンティア・アジアと位置づけ、そこで活躍しうる人材を日本人・対象国からの留学生の双方において養成する。

本プログラムで培われるトップリーダーの資質、すなわち国際性・高いコミュニケーション能力・自律的提案能力を兼ね備えた人材を育成するプロセスは、今後、学内各部局・選考での大学院教育で生かされていく。また、従来の後継者養成に的を絞った博士課程とは異なり、本プログラムでは異分野・異文化への理解力・展開力を持つPhDプロフェッショナルを養成する。その過程で、学生が企業や官公庁と接触する機会が格段に増え、人材としての博士号取得者の活用可能性に相手方の理解が深まれば、結果として博士号取得者がリーダーとして活躍できる場面が拡大する。高度の専門性を持ちつつ、大学・研究機関に収まりきらないPhDプロフェッショナルを生かす国づくりを行うことこそが今後の日本の成長戦略につながることから、博士号取得者に新たなキャリアパスを提示する本プログラムは、重点化後の大学院教育の一つのモデルケースとなる。これまでの実績に基づいて、フロンティア・アジア諸国との連携を進める点でも、多くの大学に参考となる。

2. プログラムの進捗状況

本年度は、来年度10月以降の本格実施を前に、コースワーク内容の開発、PhDプロフェッショナルを育成するにふさわしい教育方法の策定等を行うため、各研究科の協力を得て以下の内容を実施した。

- (1) 効率的にコースワーク内容の開発・策定を行えるよう、必要となる機材・書籍等を購入した。
- (2) 運営に必要な学識経験を持った特任教員、運営支援を行う非常勤職員等を雇用し、組織体制を整備した。
- (3) フロンティア・アジアを中心とするプログラムのフィールドとなる国々及び国内関係諸機関等に、留学生募集や海外研修実施を円滑に行えるよう、教職員を派遣した。具体的には、モンゴル・ミャンマー・ウズベキスタン・カンボジア・ベトナム・アメリカ・タイ等を訪問して、先方の学術交流協定校・日本大使館・国際機関等に協力要請を行った。
- (4) 大学院各研究科から意欲ある日本人学生・外国人留学生を多数参画させ、語学研修・日本文化研修・海外研修等について具体的に内容の有効性を検討するため、プログラムの一部を実施して学生に受講させた。確認された実施状況と学生からの報告を分析することにより、本格的なプログラム運営に向けたノウハウを蓄積することが可能となった。また、今年度参画させた学生については、本年度以降も正規学生に先駆けて試行プログラムに参画させ、従来の大学院教育では実施されていない経験を積ませることにより、長期の動向をモニタリングする予定である。
- (5) ヤングメンター制度については、具体的なメンターシップの方法について開発を行った。学生に俯瞰的な視野を獲得させ、ヤングメンターと接する機会を増やす方策として異分野研究体験コースワーク等の実施を検討し、来年度の本格実施のために検討を重ねた。
- (6) 今後の進捗方法を確認するために、プログラム担当者によるスタートアップミーティングを、平成25年2月に開催した。特に企業関係者である担当者から発言があり、活発なミーティングとなった。
- (7) 本プログラムを積極的に国内外に広報するために専用のホームページを作成した。その他必要となるパンフレット等の資料も作成し、各国での協力要請に利用した。